

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 田中 ゆかり

研究課題		日本語と日本語社会の実態把握
報告の概要	研究目的および研究概要	日本語と日本語社会の実態把握を目的とし、以下のような観点から研究を行った。 (1)日本語社会におけるヴァーチャル方言の実態とその成立・拡散・変容過程の解明 (2)(1)との対照研究を視野に入れた日本語以外の言語社会におけるヴァーチャル方言にかんする実態の把握 (3)日本語社会におけるリアル方言の実態と、方言と共通語にかんする言語意識等の把握 (4)日本語社会における「打ちことば」の実態と言語意識の把握 (5)日本語社会を中心とした言語景観・言語サービスの実態把握
	研究の結果	(1)(2)については、研究を進めながら業績 1、4～7、11～13 として成果を公開した。(3)については、大規模 Web 調査を実施し、過年度に実施した言語意識調査データに基づく成果として 3 を公開した。過年度データについては自然と開催の複数学会で発表予定(招待含む)。(4)については、公開をしたのも視野に入れた携帯メールコーパスの整備と分析を進め、業績 14 として成果を公開した。(5)については、文理学部授業の一環として銀座界隈の言語景観調査と冊子・Web 報告書を作成した。
	研究の考察・反省	(1)(2)(3)は調査・分析・成果公開をある程度実施できた。(4)は、次年度以降の具体的な分析を進めると同時にコーパスの一般公開に向けた整備を進めたい。(5)は、次年度以降も同様の形式で継続予定。新型コロナウイルスの影響で延期した(1)(2)関連の国際シンポジウムについては次年度開催に向けて関係各所と調整中。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 1. 著書(共著)『どっこい方言は生きている』(山形県生涯学習文化財団)(共著者:柴田徹、佐藤和之、神永暁、加藤大鶴、中澤信幸、三浦和枝、志田徳久、黒羽根洋司、白崎映美、下館和巳、今田由美子、ミッチーチェン)(2020年2月)pp.001-294(執筆部分:「第五章 方言の未来と進化」共著者:ミッチーチェン) 2. 論文「「ことば」と社会のゼミナール—初年度教育から「テーマは自由!」のゼミ論・卒論まで—」『日本語学』38(8)(明治書院)pp34-45(2019年8月) 3. 論文(共著)林直樹・田中ゆかり(2020)「解説 多人数質問調査法の現在(8) —ネット調査の利点と制約—」『計量国語学』32(4)pp.234-248(2020年03月)(共著者:林直樹) 4. エッセイ「方言はダサイから萌えへ? SNS で加速する方言コスプレ」『CHICOTTO』2020年春夏号(2019年11月)pp.32-33、コンフェックス株式会社 5. エッセイ「方言たんけん隊第1回あなたほどのタイプ? 方言意識からみる地域差」『安全衛生のひろば』1月号、pp.60-61、中央労働災害防止協会(2020年1月) 6. エッセイ「方言たんけん隊第2回「方言」が流行語大賞に選ばれる時代」『安全衛生のひろば』2月号、pp.60-61、中央労働災害防止協会(2020年2月) 7. エッセイ「方言たんけん隊第3回「方言」で心を寄せ合う」『安全衛生のひろば』中央労働災害防止協会3月号、pp.60-61、(2020年3月) 8. シンポジウム(招待) 発題3「アウェーからの国語研への期待」国立国語研究所創立70周年及び人間文化研究機構移管10周年シンポジウム「国立国語研究所の果たすべき役割」(2019年10月1日(火) 於:国語研講堂)(登壇者:ジョン・ホイットマン、ロバート・キャンベル、田中牧郎、新井紀子) 9. 国際シンポジウム(招待) “Apps for Strolling Around Edo/Tokyo: Two Smartphone Apps -’Edo/Tokyo Monogatari’ and ‘Chiyo-Dash’ -Based on the Website “Edo/Tokyo WebGIS” Symposium: Mapping in Japanese Literary and Visual Culture (2020年2月28~29日、Columbia University (403 Kent Hall)、ニューヨーク市) 10. 国際ワークショップ(共同発表、招待) 「江戸・東京 WebGIS」とスマートフォン用アプリ「江戸・東京ものがたり」“Rethinking the Cultural Cartographies of Tokyo in Japanese Media” (January 31, 2020、ブリティッシュコロンビア大学、バンクーバー)(共同発表者:林直樹) 11. 国際ワークショップ(オーガナイザー) 「高度経済成長期の言語観を映す松本清張『砂の器』」“Matsumoto Seichō: Media, Adaptation, and Middlebrow Literature” (2020年02月14~15日、@La Kretz Garden Pavilion, UCLA、ロスアンゼルス市) 12. 講演(招待)「「方言コスプレ」とその社会的背景」(清華大学創立108周年記念行事 清華大学世界文学与文化研究院 2019年4月26日(金) 15:10-16:10 於:文南楼204会議室、北京市) 13. 講演(招待)「“方言萌え”の時代」に至るまで:「方言」の価値の変遷をたどる」(日比谷カレッジ 2019年9月10日) 14. ポスター発表(共)「一般公開を視野に入れた「携帯メールコーパス」整備の試み—加藤安彦氏の遺志を受けて—」社会言語科学会第44回研究大会(2020年3月、学会は新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響のため中止。ただし原稿集公開をもって発表扱いとすると同時にGoogle formによる質疑応答が次の通り実施された。質問受付期間:2020年3月9日(月)~3月15日(日)、回答期間:2020年3月16日(月)~3月22日(日)、質疑応答の公開日:2020年3月30日(月))(宮寄由美・林直樹・田中ゆかり・三宅和子)